

# コロナ 買い物・外食減る

## 県の県民アンケート

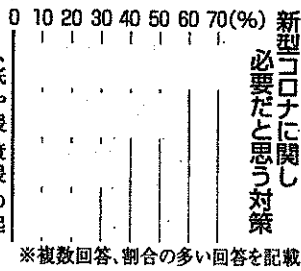
県は、昨春秋に千六百二十五人から回答を得た県民アンケートの結果を公表した。新型コロナウイルスが生活に及ぼす影響を聞いたところ、七割が「買い物、外食の機会が減った」を挙げ、県の対策として「検査・予防」の充実を求める声が多かった。

(尾崎隆宏)

### 検査や予防 体制充実を

昨年十月二十二日～十一月五日に、無作為抽出した県民三千人にアンケートを送付。54・17%から回答を得た。

新型コロナウイルスから受けた影響(複数回答可)に関しては「ショッピングやレジャー、外食の機会が減った」が70・5%でトップ。「地域に望む施策(同)は「検査・医療体制の充実、予防策の徹底」が70・4%で最も多かった。会社や雇用を守る「企業の事業継続や雇用維持への支援」も51・3%と二ツがあった。



県に望む施策(同)は「検査・医療体制の充実、予防策の徹底」が70・4%で最も多かった。会社や雇用を守る「企業の事業継続や雇用維持への支援」も51・3%と二ツがあった。

多様な働き方、地方回帰の動きが現れているのを踏まえ、アフターコロナを見据えて県が行うべき施策(同)を聞いたところ「企業誘致の推進」が45・6%でトップ。「福井県への移住促進」も35・0%と多く、人と企業を地方に誘致する好機になると分析する人が目立った。

県民アンケートは、昨年七月に完成した「県長期ビジョン」への意識調査を主目的に実施した。長期ビジョンを「知っている」と答えたのは「とても」「少

し」などを含めて24・9%で、内容に「共感できる」と答えたのは「とても」「まあまあ」も合わせると九割だった。